

健康通信

市民病院より

問合先 市民病院 (☎76-4131)

◆お知らせ

助産師・看護師募集

■嘱託職員

勤務 月々金曜日午前8時30分～午後5時

対象 助産師、看護師免許取得者
月給 27万円(一時金なし)

■臨時職員

勤務 月々金曜日午前8時30分～午後4時30分(時間は応相談)

対象 助産師、看護師免許取得者
時給 1,500円(一時金なし)

人員 各3人程度

勤務開始日 8月1日(木)

申込み 7月26日(金)(必着)までに、臨時・嘱託いずれかを記入した履歴書(写真貼付)、資格免許証の写しを郵送または直接病院総務課(〒485-8520住所不要)

※後日面接あり

甲状腺機能異常について



▲糖尿内分泌科医長 岡島 由樹

甲状腺とは

頸部気管前面に存在する蝶形の臓器。食物中のヨードから甲状腺ホルモンを合成し血中に分泌します。

甲状腺ホルモンとは

発育・成長促進、新陳代謝活性化・エネルギー産生促進作用を持ち、精神・神経や身体活動の調整に働きます。

脳下垂体より分泌される甲状腺刺激ホルモン(TSH)が、血中甲状腺ホルモンの変動を感じし、これを一定に保っています。

甲状腺ホルモンは多すぎても少なすぎてもさまざまな症状をひきおこしますが、甲状腺機能は血液検査で調べることができます。

①甲状腺機能亢進症(甲状腺ホルモンが血中に多すぎる状態)

症状 動悸、暑がり、多汗、手指振戦、いらいらなど

バセドウ病は代表的疾患で、甲状腺受容体を刺激する自己抗体(TSH受容体抗体)により甲状腺が刺激され過剰分泌がおこる疾患です。

治療には、抗甲状腺剤内服、手術、放射線治療があります。病気の程度や経過、適応で選択は異なりますが、第一選択は抗甲状腺剤内服となります。内服は長期間継続することが必要となりますが、それが困難な場合や副作用が出る場合などにはその他の治療法となります。どの治療法にしても長所・短所がありますが、甲状腺ホルモンを正常量にコントロールする事が重要です。

その他、甲状腺組織が炎症で破壊され一過性に甲状腺ホルモンが放出されることにより亢進状態になることもあります。この場合は一過性に亢進するものの数週〜数カ月で自然軽快し、急性期に抗炎症薬などの対症療法のみでありバセドウ病とは治療が全く異なります。両者は自己抗体の有無や超音

波所見などで多くの場合、鑑別できます。

②甲状腺機能低下症(甲状腺ホルモン分泌能が低下し血中に少ない状態)

症状 冷え、皮膚乾燥、無気力など

原因のほとんどが慢性甲状腺炎(橋本病)で、甲状腺細胞を攻撃する自己抗体により慢性炎症がおこる疾患です。自己抗体の存在する人は比較的多いですが、甲状腺ホルモンが正常範囲にある場合は症状を呈することも全くなく治療の必要はありません。機能低下をきたしている場合は甲状腺ホルモンを補充します。終生補充を要しますが、これによる副作用はまずありません。甲状腺ホルモン量が正常化されれば、健常人と変わらぬ生活ができます。

③LOW T3症候群

基礎疾患がある、体調が崩れている場合などに、T3のみ低値ということがあります。この場合は甲状腺は全く問題なく、他疾患の存在により二次的な機能変化をしているのみです。T3の変化自体が何らかの症状を呈することはありませんし治療不要です。

